



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
9月号
上市町立相ノ木小学校



運動会にかける思い



「おはようございます」

朝の児童玄関前、マスク越しではありますが、子供たちの元気な挨拶を聞くことができます。短い夏休みが終わり、例年より早く始まった2学期も3週間が経ちました。まだまだ暑さが厳しい中、子供たちは元気に登校しています。そして、コロナや熱中症に気を付けながら、学習や運動会練習に一生懸命取り組んでいます。特に6年生は、今年度学校行事が極端に少ないだけに、学校の中心として活躍したい、みんなで思い出をつくりたいという気持ちがたいへん強いです。縮小されたとは言え、開催できる運動会への意気込みは格別のものがあります。夏休み前から6年生だけで話し合い、練習やデコレーションづくりに励んできました。また、色団結式では、緊張しながらも団員にしっかりと呼びかけながら応援練習に張りきる姿が見られました。それから、今年度はPTA役員や保護者の皆さんの手を借りずに、子供たちとわたしたちだけで準備、片付けを行います。例年とは違ったスタイルにはなりますが、別の意義や意味をもつこととなり、一層子供たちが主となる運動会になるものと思います。午前中のみではありますが、子供たち一人一人が力を尽くし、充実感を味わい、少しでも心に残る運動会になってほしいと願っています。

とは言え、ラジオ体操やプール開放のない夏休みでしたし、コロナや猛暑のためにステイ・ホーム中心の生活を過ごさざるを得なかった子供たちにとって、練習や本番での体力にやや不安な面があります。そこでまずは、しっかりと手を振り足を上げて走ることができ、半日競技に打ち込める体力回復・持久力強化と熱中症対策を一番に考え、徐々に体を慣れさせながらこれまで練習を進めてきました。また、コロナ感染予防のため、100m走を1コースずつあけたり、上下学年に分かれて綱引きを行ったりと競技内容を工夫し、密にならないテント設営や開閉会式のもち方等運営・進行面で配慮をしました。もちろん保護者、家族の皆さんの応援、観覧の仕方にも配慮していただくことも出てきます。そういったことを踏まえると、やはり「優勝を目指してがむしゃらに突き進む」「みんなで声を合わせて盛大な応援をする」といった運動会競技に集中できる例年通りとはいきそうにはありません。

昨年の学校だよりも書きましたが、小さな頃わたしは運動会が苦手でした。100m走のスタート位置につき、横並びの同級生たちと今やスタートとなる瞬間のドキドキ感は正直好きではありませんでした。しかし、友と知恵を出し合い後輩たちを引っ張った応援合戦や友と力を合わせて勝利目指して取り組んだ団体競技等は、今でもよい思い出として残っています。相ノ木っ子たちもこれまでの運動会にいろいろな思い出をつくってきたことでしょう。そして、少しいやだなと感じている面や速く走りたいなという願い、友達と仲よくがんばろうという意欲等、今回の運動会にも子供たちはそれぞれ何かしらの思いを描いて臨むことでしょう。例年とは違った年だからこそ、運動会ができる喜びを味わいながら、前述した運動会にかける子供たちの強い思いが少しでも叶うとうれしいです。

最後に、牧師である西田育生氏の言葉です。

ひたむきな態度は 人生最高の武器である。



結果等を気にせず、何も考えずにまっすぐに行動している心の状態が、好結果を生み、満足感を得るものです。運動会によって、相ノ木っ子のひたむきさが一層育まれることを期待しています。

自分で判断・決断・行動する



1学期の終業式でわたしは、2学期もう少しがんばってほしいこととして、「ていねいな挨拶や自分が使う物の整理整頓に心がけ、自分の心や行動を表現しよう」と子供たちに語りかけました。コロナ禍にあって、マスク越しでも目をつないではっきりと言葉を交わす挨拶と自分で使う物を毎日きちんと整える習慣の積み重ねが大切だと考えたからです。そしてそれに加え、2学期始業式に「2学期、いや、これからずっと、何が大切か、何を大切にすべきかを自分で判断し、行動していこう」と話しました。

コロナウイルスによって一変してしまったわたしたちの生活。昨日までは大丈夫でも、今日どうなるかわかりませんし、これまでの常識や生活体験が通じなくなっていました。大人ですら、自身の行動を判断・決断することがたいへん難しくなり、基準とする考え方もぶれ始めています。だからこそ、子供たちには自分で判断し、行動する大切さを実感してほしいですし、自身で判断・行動をしていこうという意志・意欲をもってもらいたいと考えます。

小学生はまだ子供だから、そんな目当ては難しいし、要望が高いのではないかと思われるかもしれませんが、子供たちはこれまで家族や先生が示してくれたことを忠実に守ることで自分の安全や安心を保ってきましたが、これからは、情報や状況、周りの人との関わりの中で、自分で決め、行動していくことが重要であり、必要となってきます。そういった判断や決断、行動を少しずつできるようになってこそ、予測がつきにくい現在、さらに将来の社会において、子供たちは自分の安全・安心を自身で確保することができるのではないのでしょうか。

また、コロナの感染拡大に伴い、憶測やうわさ、誹謗中傷やいじめ等、人間の信頼関係や道徳性を大きく損なってしまう問題が起きています。背景には、感染への怖れや不安、自分や家族の安全を願う気持ちがあるのですが、そこには他者への気遣いや思いやりといったものが全く感じられません。SNSを中心とするそういった問題は、自分中心の考えに陥ってしまったり、自己の感情を抑えられなかったりしやすいものです。つまり、自分の考えや行いがどのような事態を引き起こすかを想像できないことに最も原因があるように思います。やはり、自分の行動はどんなのかしっかりと判断することが大切であり、自分の判断や行動に責任をもつことが最も大事なのではないのでしょうか。

小説家であり、尼僧でもある瀬戸内寂聴さんは、次のように言っています。

自分の行為に責任をもつのが 本物の人間である

相ノ木っこのみんな、「自分で判断し、決断し、そして行動する」って、とても大事なことですよ。しっかりと責任がもてる素敵な人になっていきましょうね。

行事予定(9月中旬～10月中旬)

9月15日(火) 運動会前日準備
下校 1～3年 14:00 4～6年 15:15
16日(水) 秋季大運動会
21日(月) 敬老の日
22日(火) 秋分の日
29日(火) 3年ふるさと学習



10月 2日(金) 6年校外学習(沢登り)
5日(月) 要請訪問研修会
下校 1・3・4・5年 13:20 2・6年 14:45
7日(水) 6年ふるさと学習 眼科検診
8日(木) 健康・運動能力向上支援事業(1・2年)
13日(火) 歯科検診

